

桜真

NO.50

2020(令和2)年7月30日発行
岩瀬日本大学高等学校
<https://www.tng.ac.jp/iwase/>
父母と教師の会
〒309-1453
茨城県桜川市友部1739
TEL 0296-75-2242
FAX 0296-75-4905

新型コロナウイルスによる臨時休校に
学校現場はいかに取り組んだか



全国高等学校総合文化祭出品作品

「夕暮れ時の景色」

2年1組 諸井 楓

今回の絵は縦1m16cmの作品です。新型コロナウイルスの臨時休校中に人物画を風景画に変更しました。自分の力を出し切れるのは風景画だと思ったからです。

空のグラデーションや、消えそうな雲の表現は大変でしたが、工夫して描けているのではないかと思います。幻想的な雰囲気注目していただければと思います。

学びを止めない！

「新型コロナウイルスに思うこと」 学校現場から



校長
齊藤 克朗

令和の時代を迎え初めての春、3月2日に171名の卒業生を次のステージへと送り、続く4月7日には244名の新入生を加えて希望に満ちた新年度のスタートを切る予定でしたが、「新型コロナウイルス感染症（以後「コロナ」）の拡大で長期間にわたり社会生活が制限され、学校も臨時休校を余儀なくされました。6月に入り全国に出されていた「緊急事態宣言」が解除され少しずつ日常生活が戻りつつあるものの感染終息には至っておらず、まだまだ緊張の日々は続き、さらに今回のコロナは今後の社会生活や学校の学びにも大きな影響を与えるものと考えています。

この緊急事態に対し学校では臨時休校に入った直後から「学びを止めない！」ということに重点をおいて対応してきました。在校生の学年末の学習まとめと新入生を含めた新年度始めの学び、それに4月の基礎学力到達度テストをどう乗り切るかを目標にして、教科ごとに課題学習に取り組み、休校の長期化とともにオンラインでの動画授業へと移行し「学びの補償」に努めてまいりました。このオンライン対応には各家庭の情報機器の整備状況の違いなどもございましたが、短期間で機能できるまでに至りました。ご家庭のご理解とご協力で改めてこの紙面を借りて感謝と御礼を申し上げます。

そして5月に入り学校再開に向けた本格的な準備に

入りました。地域の感染現状や様々な機関からの情報、それに父母会の役員の方々のご意見も参考にさせていただき段階的な学校再開計画が立案されました。その計画には5月下旬から分散登校を開始し、6月1日から一斉登校での短縮授業、そして8日から通常日課に入るというものでしたが、順調に遂行されたものと思っております。生徒たちも教職員も学校再開を歓迎してくれ、対面でのやり取りを楽しんでいるように思え、ひとまずは当面の危機からは脱した感じを持ちました。こうした過程の中でオンライン授業の良さや効果が確認できましたが、やはり学校は多くの人々が時間を共有しその中で互いを成長させて行く、そんな人間形成の最高の場所であることを再認識できたことも大きな収穫であったと思っています。また急場でした

が機能したオンライン学習ツールについても様々な活用が考えられることから、本校がこれから推進する「ICT教育の推進」の実践項目の1つとしても取り上げさらに活用を図っていきたいと考えています。

次に、今回のコロナで感じた今後の本校の学びについて述べさせていただきます。現在、文部科学省では未来を担う子供たちに「主体的な学び」を求めています。これまでの学びの評価は単に知識量によって決定されていましたが、これからは学校生活で得た知識をベースに、それを人生や社会でどう活用するか、いわゆる生かす力を養うこととしていきます。このコロナによって個々の自己力が極めて重要になりました。本校生にも、今起きていることを受け入れ、状況に正しい判断と行動が取れること、それにいかなる困難や逆境におかれても自己力で乗り越えて行く、そんな力を本校での3年間で培えるようにしていきたいと思っています。

今回、このコロナによって私たちは多くの時間を失いましたが、誰もが、将来「今回の経験があったから、今がある！」と言えるよう、前向きな毎日を送りたいものだと思います。

「想像できない変化に対応する」 時代と学び

国立・特進コース全学年主任

吉田 邦孝

本来であれば、新たな気持ちを持って、新年度の準備と実行を進めて、保護者会等においてご挨拶申し上げるところですが、保護者の皆様には、本コースの取り組みを見守り、様々なご協力をいただきましたこと、大変感謝いたしております。皆様のご理解のおかげで、4月からの4ヶ月間を、十分ではありませんが、前進することができたと感じております。

Volatility (変動)・Uncertainty (不確実)・Complexity (複雑)・Ambiguity (曖昧)の言葉をつなぎ合わせ、「VUCAの時代」と言われ、教育の場でも、「将来VUCAの世界を生きる生徒たち」をどのように育てるか」と数年より議論されてきました。しかし、今年痛感したのは《将来》には《今現在》をしっかりと含んでいるということでした。COVID19の対策も、社会経済への痛手も、私たちの生活や文化を変化させたのも、まさにVUCAそのものです。自分が教えてきた物理や化学のように正解がなく、考え悩み行動し、藻掻き続けるしかないことを、「オンラインツールを使っている授業をどうするか」という課題に直面し、自身が学び続ける毎日でした。そして、理念や価値観を見直し、自己の「学び」を充実させ、行動の変容が課題解決に必要と感じていきます。

地域や世界には多くの課題・問題が存在しています。その先にある幸せにあふれた世界を共有しようと、生徒が学び・変容し続けることは、どんな時代の変化をも乗り切っていく力になると信じ、これからの学という存在を問い続けようと思います。

「臨時休校を振り返って」

日大・総進コース1学年主任

谷津 直秀

「生徒がいるってやっぱりいいね」
学校が再開されたとき職員室で何度も聞いた声です。教室での笑い声、真剣に授業を受ける眼差し。同じ場を共有するからこそ得られる気持ちのやりとりがあることを改めて強く感じました。

臨時休校中はまさに「手探り」でした。生徒の皆さんと顔を合わせられたのは入学式と直後の登校日の計4時間だけ。そんな中、私達が考えたことは、何とか生徒の皆さんと「繋がり」をつくることでした。そのため、とにかく連絡をとろうとしました。授業以外でオンラインでのHRや出席確認、振り返りアンケートなどを実施したのはそのためです。この試みに対し、想像以上に皆さんがついてきてくれました。

学習面では、生活のリズムを整えやすいよう、時間割に沿ったオンライン授業を行いました。お互い慣れていないし、web環境も完全でないため、不十分なところはありましたが、「学習習慣が途切れてしまう」という状況は回避できたかと思えます。

臨時休校が明けて以降、クラスや部活の様子を見ると、日に日に硬さがとれ、新しい人間関係ができています。教室や部活の場を「自分の居場所」と感じられている人が増えていきます。でも、もちろん、まだ始まったばかり。一方で馴染めていない人もいます。友人関係も部活の人間関係も、まだまだこれからです。焦らず少しずつ「繋がり」を作ってほしいと思います。

今年度は行事をはじめ、多くの変更点があります。今までは違う学校生活になるでしょう。今後もどんな状況になるかわかりませんが、私たちは変わらざる生徒・保護者の皆さまとの「繋がり」を大切にしていきたいと思えます。

「2つの驚き」

日大・総進コース2学年主任

井上 隆一

2月下旬からのおよそ3カ月間、本校でも臨時休校を余儀なくされ、生徒が登校できない状態が続きました。その中で、私が感じた2つの驚きを紹介します。

5月下旬の分散登校の日、休校期間中どんなことを生徒たちが考えていたのか、文章にしてみました。印象的だったのは、「辛い」「怖い」などのマイナスイメージよりも「周りの温かさに触れた」「普通の生活がいに幸せだったかを感じた」「家族との時間が増えたことがよかった」などプラスの意見が多かったことでした。生徒たちは、世界を揺るがすほどの事態の中で、前向きな気持ちを忘れていなかったのです。本校の保護者の皆さまのご苦勞を垣間見たと同時に、ご家庭の力の大きさに驚かされました。

もう一つは、休校が始まって間もなくして、日本の小中高大学教師やICTに詳しい専門家も含めたネットワークが、SNSを通して立ち上がり、生徒の学びを止めないための方法や学校再開に向けた取り組みの手順を話し合う場が、あちこちにてできていたことでした。オンラインで勉強会が行われ、本校でも、突貫でしたが、オンラインの授業をスタートすることができました。この国の先生たちの情熱と姿勢には、驚かされました。

私自身も、この期間に、学校で学ぶことの意味、学校の存在価値など、これからの学校の在り方を考えるよい機会となりました。

この試練の先が、これまでよりも良くなったと言えるように、この強力な2つの驚きをくれた人たちと、もう少し頑張りたいです。

「休校期間を振り返って」

日大・総進コース3学年主任

木川 修一



当たり前の日常がどれほど尊いものか痛感した3ヶ月でした。5月に久しぶりに友人と再会した生徒の表情は喜びに満ちあふれ、学校の存在は生徒の心を育む大切な場所であると改めて感じました。

修学旅行を終え、いよいよ受験生として勝負の1年へ、もうすぐ期末考査を迎えようとしていた矢先に徐々にコロナ禍が深刻化してきました。感染拡大の報道が増えるに従い、不安な思いが増してきました。

そんな中、私たちにできることはいかに生徒たちの学力を落とさず受験に向かう態勢を整えることでした。学校としては早くオンライン授業を検討し、どのように授業を作成したら良いかを日々教員同士で話し合っていました。私たちにしても初めての経験の中、皆で知恵を出し合い、配信するに至りました。生徒のみなさんも戸惑いながらも授業を視聴し、回答してくれました。自粛生活は長く続きましたが、再開できた時にはコロナ疲れも一気に吹き飛びました。

現在はまだまだまだ予断を許さない状況ですが、校内でも消毒や手洗い、マスク着用など感染防止に一人ひとりが協力してくれています。当たり前の日常がなんとか戻り、活気溢れる生活を送ることができ嬉しく思います。そして、学力を高めるために遅くまで学校に残り勉強に励む生徒が増えてきたことも非常に頼もしく感じられます。

無事に通常授業が再開できたのも、休校を余儀なくされ、不安が募る中ご協力いただいた保護者の皆様のおかげだと思います。この場をお借りして感謝申し上げます。3学年のみなさんには残された高校生活を十分に満喫してもらい、進路が無事希望通りいくことを祈念いたします。今後ともよろしく願っています。

2019年11月	中国武漢で新型コロナウイルス発生が確認される	
2020年1月7日	世界保健機関（WHO）はウイルスを2019-nCoVと暫定的に命名	
1月31日	WHOは「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」（PHEIC）を宣言	
2月11日	新型コロナウイルスによる疾患をCOVID-19と命名	
2月27日	全国の小中高並びに特別支援学校に臨時休業要請が出される	
2月29日	23区の多くの区立小中学校が3月25日までの休校を発表	
3月2日	卒業式。卒業生、教職員等のみの最少人数で挙行	
3月2日	3月24日までの臨時休校開始（3/25から4/8は春期休業）	
3月7日	世界で感染者数が100,000人を超えたを発表	保護者席狭しくも最少人数で挙行
3月11日	WHOがパンデミック（世界的流行）相当との認識を示す	
3月17日	茨城県で初の感染者	
3月21日	3月19日政府・文部科学省より今後の対応について新たな方向が示されたことを受け、3月24日から3月31日の平日を登校日とすることを発表	
3月22日	新入生登校日を時間短縮で実施	
3月23日	茨城県4人目の感染者発生を受けて3月25日から31日までの臨時休校を発表	
3月24日	安倍晋三首相が東京オリンピック・パラリンピックの延期決定を発表	
3月24日	時間割を変更して11時40分完全下校、荷物の持ち帰りを指示	
3月25日～4月8日	春季休業	臨時休校から 新しい生活様式へ
3月25日	小池百合子都知事が外出自粛要請の緊急記者会見を行う	
3月25日	生徒全員、毎日インターネットでの健康チェック開始	
3月29日	コメディアン志村けんさん死去	
4月2日	世界全体の累計で100万人を超え死者も5万1000人を上回った	
4月4日	土浦市外出自粛要請	
4月7日	7都道府県を対象に緊急事態宣言を発出	
4月7日	入学式。224名の新入生と教職員等のみの参列で挙式	
4月7日	新学期開始延期と4月10日2年生、11日1・3年生の登校日を発表	
4月9日	臨時休校開始。部活動は停止	オンライン授業で生徒の質問に対応
4月10日	2年生登校日（2時間）	
4月11日	1・3年生登校日（2時間）	
4月11日	各家庭にWi-Fi環境整備のお願いを連絡	
4月13日	茨城県外出自粛等要請	
4月13日	授業ガイダンス配信開始。インターネットでの授業やLHRを実施	
4月14日	桜川市より5月6日までの不要不急の外出自粛を要請	
4月16日	世界全体の累計で感染者数が200万人を超え、死者も13万3000人を超える	
4月30日	5月6日までの臨時休校延長を発表	
4月30日	理事長のビデオメッセージ配信	
4月30日	校長のビデオメッセージ配信	
5月4日	政府は、5月6日までとしていた緊急事態宣言について、全国都道府県を対象に5月31日までの延長を発表	
5月7日	通常時間割でのオンライン授業開始 期間中、専門業者による消毒作業の実施・マスクの在庫確保・液体石けん在庫補充・体温計補充・教卓に飛沫予防ビニールシート設置・スクールバス増便（乗車率50%以下）等の対策に取り組む	
5月8日	茨城県外出自粛、休業・休校要請を5月17日まで延長を発表	
5月14日	茨城県緊急事態宣言解除	
5月15日	5月19日から30日まで分散登校日(学年登校日)を設けることを連絡	
5月18日	読売新聞に本校のオンライン授業の取り組みが紹介される	
5月19日	学年別分散登校開始(2時間)	
5月25日	新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言を解除	
5月27日	再開準備期間として6月1日からの学校再開の手順を連絡	
5月30日	父母と教師の会等総会（代表者による決議）	
6月1日～3日	短縮午前中授業実施	
6月4日～5日	短縮6時間授業開始	
6月8日	茨城県は外出自粛要請や休業要請を全て解除	
6月8日	通常授業開始	
6月28日	世界全体の累計で感染者数が1,000万人を超え、死者も49万9000人を超える	

学校行事の変更

夏期休業	8月9日～8月16日
前期期末考査	8月18日～8月21日
2学年修学旅行	2021年3月7日～3月11日
	※九州・沖縄方面へ検討中

学校行事の中止

桜葉祭
前期中間考査
1学年キャリアキャンプ等

「*渦中の琥珀を拾う」

教頭 小泉 英喜

全国の小・中・高並びに特別支援学校に政府から臨時休業要請が出された2月27日、本学園でも政府要請に応じ、学園の中等学校と高校も臨時休校とすることが決定されました。突然の休校処置に現場ではその対応に奔走し、急遽、翌28日の午後をLHRとし3月3日からの臨時休業期間について指導することとなりました。本校では令和3年からのタブレット導入に向けてICT教育活用の研究を進めていた経緯もあり、ネット教育システムの「Google Suite For Education」のアカウントを登録させ休業中の指導に当てることとしました。研究を重ねていたとは言え、多くの先生方はネットを使った教育は不慣れであり、3月中はどうやってネットを活かした学習指導ができるかの研究やその試行錯誤に明け暮れました。

できるだけ早く学校再開を望んでいましたが、感染状況の好転は見られず、4月からも臨時休業を続けることとなってしまいました。学習保障の心配もあり、4月10日、11日には、新学年の教科書販売と1年生のGoogleアカウント登録を目的に学年別の分散登校日を設けました。また、ネットを通じて課題提供を行うだけで無く、オンライン授業も実験的に始めました。

5月になると茨城県の感染状況も落ち着いて来ましたが、首都圏の感染状況と住民の風評などからゴールデンウィーク明けも臨時休業が続くことになりました。しかしながら、ここまでの間に先生方のネット配信の技術も向上し、通常時間割通りにオンラインで動画配信授業やライブ配信授業を行い、学習の遅れについても十分な対応ができたと思います。それでも早期の再開に向けて5月18日の週から学年別分散登校を始め、本格的な学校再開に向けての学校環境(消毒、換気、飛沫防止など)作りに努めました。様々な試行錯誤の末、無事6月1日からの学校再開を果たすことが叶いました。6月からの授業ではオンラインの技術を使った次世代の形態を意識した工夫がなされ、これまでの先生方が努力を積み重ねて来たことが無駄にならず、

災いの中にも活路を見いだした気がします。何にせよ元気に登校する生徒の笑顔が見られたことが、教員の最大の喜びだと再確認させていただき、老いた私は新たな活力を与えていただき、感謝に堪えません。

今回一番恐ろしいのはコロナウイルスでは無く、国民の風評であることを痛感しました。ネット時代の今、正しい情報も正しくない情報も玉石混濁で流れ流しの状態でした。マスコミも視聴率取得に躍起になり情報の真偽に関係なく不安をあおるような報道を流します。偏った情報は、間違った価値観を生み、そして偏見を生みました。東京都の職員が開店している居酒屋に嫌がらせしたり、4月に学校再開を決めた県知事に「Twitter」等で誹謗中傷したり、感情的な言動が横行しました。そのような中、本校でも科学的な見識だけでなく風評による不安感情にも配慮して、生徒の感染に対する安全対策を二重三重と上掛けして取ることにになりました。それは大変な労力と費用を課すものです。私は、そのような風潮の中だからこそ生徒には「正しく恐れる」ということを教えることが学校の使命、教育だと感じました。「正しく恐れる」とは正しい知識を身につけ、偏見や風評に惑わされず正しい行動がとれることを目指します。学校での消毒、手洗い、咳エチケットそして3密を防ぐ施策をきちんと理解して行動してゆく中で、新しい生活様式を身につけてもらいたいと思います。そして、将来また似たようなことが起きたとき、率先して後輩達を導けるリーダーになってほしいと思います。

最後になりますが、今回のコロナ禍は大変な厄災ですが、そんな中で、身につけた技術や気づかされた大切なことがたくさんありました。何事もあきらめずに立ち向かうことで新しい道が開けることを実感した3ヶ月でした。まだまだ、終息は遠いので、これからいろいろなおことが起こると思います。それでも今までの経験を活かし、今後も生徒や保護者の皆様と協力しながら岩日教育(岩日魂)の灯火を掲げてゆきたいと思えます。

*タイトルの「渦中(かまど)の琥珀(こころ)を拾う」は、「火中の栗を拾う」の韻を模した造語

「コロナ休校期間を振り返って」

令和元年度生徒会長

3年4組 堀中 ひな

突然始まったコロナ禍。

意図せず時代、文化が大きく変わりました。COVID-19蔓延防止のため、春休みがとて長くなり、いつ再開するのか分からない、外出できない時間が続きました。

しかし、振り返って見ると全く意味の無い時間ではありませんでした。私はコロナ休校期間に将来を見据えて料理に挑戦し、だいぶ腕前を上げました。なぜなら、進路希望が実現すれば、来年から大学に進学し一人暮らしが始まるからです。料理を美味しく作るということは本当に大変だということがわかり、学校では得られない多くのことを学びました。初期に作った物は自分が納得できる味ではなく愕然としましたが、料理は奥が深いことに気づき、研究していくうちに面白くなっていき、日中はオンライン授業に励む一方、納得できる味になるまで作り続けました。

6月1日に学校は再開しましたが、感染防止の観点から文化祭はなくなっていました。最上級学年は、誰もが楽しみにしていた模擬店を出せなくなりました。自分の公約であるクラスTシャツを作ることもなく、一致団結して高校最後の思い出を作ることでもできなくなっていました。部活動の大会は次々と中止が発表され、友達を励ます言葉も見つかりませんでした。

しかし、できなくなったことを悔やんでばかりでは進歩がありません。コロナ禍以前の日常が尊いと自覚すると共に、新しい時代に適応して前を向いて生きていかねばなりません。休校中の時間はたくさんあります。それぞれが自分と向き合うことができたと思えます。皆さんはどのように過ごしましたか？

「コロナ休校というレアな体験を成長の糧に」



父母と教師の会
会長 鈴木 礼子

「ソーシャル・ディスタンス」って最近よく耳にするよね」「星空のディスタンス」お母さんの世代は、アルフィーのこの曲を連想するかもね」

普段より言葉を交わす時間が増えたはずなのに、年頃の子供との会話には、これ以上弾むこともなく、低空飛行のまま、休校生活が始まりました。

新型コロナウイルスの影響により、学校行事や自治会、公民館行事が中止となり、カレンダーから恒例行事が一切消えました。このような状況の中で、実家から貰った栃木県産のイチゴでジャムを作り、朝採れのタケノコを煮たり、家庭菜園で収穫したサヤインゲン茹でて冷凍したりと、今まで経験したことのない自粛生活の中で、少し自給自足と勘違いしながらオーガニックな生活を満喫しました。

6月2日の夜8時、新型コロナウイルスの収束を願う花火が全国で打ち上げられ、花火業者の有志による粋な計らいに、日

本人として誇りを感じました。

ラグビーのワールドカップ（W杯）日本大会で活躍した福岡堅樹選手が、東京オリンピックの開催延期を運命として受け入れ、コロナ禍での医療従事者への敬意から、かねてからの夢である医師への道を志すという生き方を表明しました。「人生の中でどの選択が後悔がないと考えた時、この選択が一番すっきり受け入れられる」という福岡選手の言葉に「正解」が担保されないまま、自分の経験上から助言してきたことを省みま

予測不能な時代を生き抜き、道を切り開かねばならぬ子供達と、正解が分からず翻弄する親たちに、今後加速するであろう新しい生活様式やAIの導入において降り掛かる人生の課題を、いかなる方法で乗り越えていくのが重要であると考えさせてくれたのが、休校期間であり、ホームステイ週間でもありました。

令和2年度 父母と教師の会等総会

5月30日(土)本年度は新型コロナウイルスの影響で、代表者による決議という形で行われました。慎重な審議がなされ、全ての議案が可決されました。



令和2年度 父母と教師の会等役員一覧

役職名	氏名	年組	生徒氏名
父母と教師の会会長	鈴木 礼子	3-2	理子
後援会会長	保科 晃		
体育後援会会長	青木 匡尚		
父母と教師の会監事	太田 修一	3-4	嗣教
副会長・桜川支部長	真崎 剛	3-2	杏奈
副会長・東西支部長	藤野 明子	3-6	直樹
副会長・榎木支部長	野仲 敦	3-4	悠生
下館支部長	相田 要	3-1	真也
北つくば支部長	藤原 美保	3-3	未来
ときわ支部長	軽部 智江	3-3	友介
成人教育委員長	小松崎 八重子	3-5	雅斗
生徒指導委員長	長澤 裕美子	3-2	果那
広報委員長	山中 隆行	3-3	亜弥

部活動等報告

男子ソフトテニス部

「三年生に感謝」

顧問 櫻井 是孝

今、私が思うのはこの一言です。今から2年前、個性にあふれた13名の部員が入部してくれました。私から見れば、大切な部員であり後輩にもあたります。高校時代、無名だった私をインターハイ・国体の茨城代表選手まで育てていただき、かけがえない経験をさせていただきました。後輩たちにもそういった経験をさせてあげたいという思いで、全国各地に遠征に行き、強豪校と試合を重ねてきました。寝食を共にし、喜怒哀楽を共有しながら着々と力をつけてきました。しかし、世の中がコロナという状況となってしまい、目標としていたインターハイが無くなってしまいました。3年生のことを思うと、言葉で言い表せないくらい心苦しいです。事実上引退という形となってしまい、私以上に辛い思いをしている3年生ですが、今でも練習に参加し、後輩にアドバイスをしてきてくれています。8月に代替え大会として、試合が行われることとなりました。今まで努力してきたことをコートに出し切ってほしいです。

女子ソフトテニス部

「想いを繋ぐ」

顧問 小松崎 伸

チームの目標として掲げているのが「関東大会・インターハイ出場」です。はじめは地区大会を勝ち抜けないところからはじまり、日々努力を続け、前回の新人戦団体では地区大会準優勝・県大会ベスト16の成績を収めました。人数は決して多くありませんがチームで足並みを揃え、元気にテニスをしています。先輩は、礼儀やテニスの技術、プレッシャーの中で戦う自分達の姿を見せ、そこから後輩は多くのものを学びます。

高校の部活動は約2年半ですが、そこにはこれまで部を支えてくれた先輩達の想いや歴史が詰まっています。次の世代がそれを背負いまた次へ繋げていきます。

コロナウイルスの影響で関東予選・インターハイ予選がなくなってしまい、3年生は実質引退となってしまいました。これまでチームを率いてくれたこと、共に苦楽を乗り越えてくれたこと、本当に感謝しています。3年生の想いを1・2年生が次の大会までもつていき、共に戦おうと思います。

男子剣道部

『蜻蛉』

顧問 大橋 義樹

コロナウィルスの広がりは、剣道界にも大きな影響をもたらしました。競技の特徴からも分かる通り、対人で大きな発声をするところから、剣道は感染リスクが高く、実際に剣道界でもいわゆるクラスター感染が起きてしまいました。3月頃からは、全日本剣道連盟からも稽古自粛の要請が出たことにより、剣道の稽古はまったくできない状況になってしまったのです。各種錬成会や大会等もことごとく中止になってしまいました。特につらい思いをしたのは、3年生です。男子剣道部においては、1月に行われた新人戦兼全国選抜予選において、団体でベスト8に入賞することができました。5月に行われる関東大会県予選のシード権を獲得することができ、関東大会出場を目指して、もっと力をつけていこうと思っていた矢先にコロナの騒ぎとなってしまいました。

生徒と共有した気持ちは、悔しいけれど悲しいけれど、人はそれを背負いながらも前に進むしかないということでした。古の武士が愛した蜻蛉のように。

女子剣道部

「全国大会出場 12月に夢の舞台へ」

顧問 齊藤 猛之

女子剣道部は、今年の1月22日に開催された全国高等学校選抜大会茨城県予選を突破し、悲願の全国大会への出場権を得ることができました。

過去にインターハイ・関東大会出場は果たしているものの、全国選抜大会には縁が無く、卒業生やその保護者にとっての悲願でもありました。

ところが、未曾有の事態が世界中を襲い、全国の舞台上上がることができないまま中止の決定が下され、その後の大会もすべて中止になりました。

しかし、12月に全国選抜大会の代替大会が実施されることになり、3年生にとっては「夢の舞台」が叶うことになりました。現在は、進路実現と両立させながら全国制覇を目指して頑張っています。

新チーム10名も全国大会出場を目指し、始動しています。約2ヶ月、目標とする先輩方の後ろ姿を見ることができませんでしたが、高い志を抱いて日々の練習に取り組んでいます。

男子卓球部

「当たり前」に感謝する

顧問 関川 治郎

本来ならば、3月に千葉県で行われる全国選抜大会に出場し、夢舞台での活躍を、選手は経験しなかったに違いないと思う。

更に、今年度に入り、関東大会、インターハイも中止になり、特に、2・3年生にとっては、何とも言いようのない虚無感があつたのではないだろうか：

しかし、そんな気持ちを払い除け今できることを全力で取り組みようとしている姿があつた。

そんな中、県大会の代替大会が開催することになった。3年生にとっては、高校での締めくくりの場ができたことは、十分満足できるものではないが喜ばしいことと受け止めてもらいたいと思う。

試合ができるのは、当たり前前と違っていたことがこの度の様な事できなくなってしまうのだ。安全で安心できる平和な世の中であるからこそスポーツ界が成り立つのだと強く思い知らされた。だからこそ、日々練習

できることだけでもありがたいと思いき感謝の気持ちを忘れず選手と共に進んで行きたいと思う。

女子卓球部

「出口のないトンネルはない」

顧問 池田 祐介

昨年度末、前年に引き続き出場した関東新人大会(団体)で昨年度を上回る結果を残し、い流れで今年度を迎えた。春の関東大会本戦出場を目指し一丸となって練習に励んでいた矢先の緊急事態宣言。今までは一変、練習が行えない日々が続き、目標にしていた大会も開催が中止となり尻切れとんぼになってしまった。今思い返すと、3年生4人の高校卓球生活は苦勞の連続であつた。ただ、彼女たちはどのような状況であつても卓球と真摯に向き合い、4人で乗り越えその度に成長し結果を残してきた。私自身、彼女たちには、3年間頑張ってきたよかつたと実感を持って引退させてあげたい一心であつた。ただこの

ような状況で何と声をかけていいのか、苦悩していた。そんな折に、7月末に代替大会の開催が決まったと連絡がきた。目の前が開けパッと光が差した気がした。きつと今までと同じように、この困難もまた乗り越えてくれるだろう。高校最後の大会。今までの思いをすべてぶつけ、躍動してもらいたい。

3年生部員達からは、「感謝」という言葉を多く聞きました。試合ができる場を設けてもらった感謝、3年間支えてくれた家族への感謝、共に頑張ってきたチームのみんなへの感謝。

甲子園は、野球部の夢です。今年の夏の夢はなくなりませんが、岩瀬日大野球部の今夏の目標はベスト8でした。この目標達成のために最後まで全力を尽くします。

部員達には、感謝の気持ちをプレーで表し、一生忘れられない特別な夏にして欲しいと思います。

部員達には、感謝の気持ちをプレーで表し、一生忘れられない特別な夏にして欲しいと思います。

硬式野球部

「特別な夏」

顧問 石塚 和之

甲子園大会中止の会見を見た部員達から、率直な思いをメールで送ってもらいました。

残念、悔しい、気持ちの整理がつかないなど、今まで目標を持ってやってきた全てを失ってしまった無念さが伝わってきました。

しかし、甲子園はないけれども、県独自で大会を開催することが決まると、気持ちを切り替え、それに向けて頑張ろうと再始動しました。

3年生部員達からは、「感謝」という言葉を多く聞きました。試合ができる場を設けてもらった感謝、3年間支えてくれた家族への感謝、共に頑張ってきたチームのみんなへの感謝。

甲子園は、野球部の夢です。今年の夏の夢はなくなりませんが、岩瀬日大野球部の今夏の目標はベスト8でした。この目標達成のために最後まで全力を尽くします。

部員達には、感謝の気持ちをプレーで表し、一生忘れられない特別な夏にして欲しいと思います。

女子硬式野球愛好会

「笑顔で練習」

顧問 箱根 崇行

昨年4月、硬式野球をやりたいと2名の女子生徒が入学してきました。当初は男子と一緒に予定でしたが、愛好会として単独で活動を始めました。

野球場外の空きスペースで平日は週3日の練習、土日・休日は栃木県小山市にあるエイジエック女子硬式野球部で練習に参加させていただきました。同野球部には元女子プロ野球選手や全日本メンバーが数名おり、非常にレベルの高い中で貴重な体験をさせていただき、たいへん感謝しています。そして、1年間、2名は良く頑張ったと思います。

今年4月には5名の新入生が加わり、2年生も1人増えました。練習もらしくなってきた折、コロナの影響で活動自粛となり、クラブチーム（他校生と合同）で参加を目指したヴィーナスリーグも中止となりました。本校単独チーム結成は来年に持ち越しですが、現在は活動が再開し週5日笑顔で練習をしています。夢を持ち、過程を重視したチームを目指します。

サッカー部

「You'll never walk alone」

君は決して一人じゃない」

顧問 塩田 悠一

世界的なチームイギリスの名門「リバプールFC」から発信されたメッセージ。日本サッカー協会ではガイドラインを作り活動再開を少しずつ始めています。

1年生14名の加入で42名となったサッカー部の活動は、再開後、今までに増して活気ある活動ができています。

インターハイは代替えの地区大会まで。冬の選手権は10月からの開催。例年のない日程になる予定です。日々の活動を大切にし、冬の選手権に向けてチーム一丸となり取り組んでいきたいと思えます。

また、このような社会状況の中、サッカーを通して培った判断力と行動力を活かしていけるよう頑張っていきたいと思えます。

「You'll never walk alone
君は決して一人じゃない」



バスケットボール部

「休校期間を終えて…」

顧問 谷津 直秀

音が消えたコート。ボールが弾む音もリングを抜ける音も、シューズが擦れる音もない3ヶ月間。

顧問になって初めての出来事。目標だった4月・5月の大会も中止。

3年生はどうなるの？

どうしようもない状況が続く。6月、学校の再開とともに部活動も少しずつ再開。新しく8名の選手と2人のマネージャーが入部。新鮮な雰囲気の中、練習も再開。

3年生が出場できる大会も開催されることが決まり、受験勉強と並行しながらも、最後の舞台に立てることが決まる。

今はまだ制限があつて以前のように練習できるわけではないし、今後どうなるか不安もある。しかし、音が消えていたコートに音が戻った。

そして、何より、コート生徒達には心の底からの笑顔が溢れている。

やはり、高校の部活でしか味わえない魅力は確実にあると思う。高校3年間で少しでもそれを経験させてやりたい。

バドミントン部

「前向きに」

顧問 榎戸 紫

現在、部活動が再開し、各自が目標を持ち活気あふれる活動を行っています。

新型コロナウイルスの影響で約2ヶ月間の活動休止、そして、インターハイ予選が中止となりました。

6月から活動が再開されましたが、3年生は受験が近づいてきていることもあり、7月まで自由参加としました。このような状況ですが、3年生は自分たちの最後の試合がなくなってしまうたにも関わらず、受験勉強の合間をみて、後輩への指導を行って部活動を後押ししてくれています。

また、2年生は新たな部長とともに全員が頼もしくなり、1年生は初心者から経験者までたくさん生徒が入部してくれました。

このように、以前より部活動に活気があふれているように感じています。

部員全体で新型コロナウイルスの影響を前向きに捉え、バドミントンができる喜びと共に、8月の夏季大会に向けて楽しく日々の活動に励んでいます。

陸上競技部

「今回の社会状況と」

部活動」

顧問 原田 航

3年生の最後の大会が集大成で、そこに向けて高校3年間頑張ってきたんだ、とそれが当たり前だと考えていた。そして、引退までの間に後輩に伝えられるものを残していく。3年生が引退の日を迎えたときに「3年間頑張ってきたよかったです。」と思えるように指導していくことこそ、顧問の役割だと考えていた。しかし、それは新型コロナウイルスのため社会状況が一変したことによって大きくその地盤を見つめなおすことになった。客観的に見ても、今の3年生たちは本当によく部活動を築きあげたと思う。先輩たちから伝統を引き継ぎ、自分たちの代で昇華していくということができていた。この子たちの背中を見て育った後輩は幸せだとも思っていた。

しかし、肝心の最終学年を迎えたときには、集大成を迎えることも伝統の引き継ぎの機会も失われた。なぜ、よりにもよってこの代の子たちなのだろうと思った。そして、当たり前前甘え、未だそれを実現させられていない現状を申し訳なく思う。

ライフル射撃部

「今年度から」

ピストル競技も

顧問 宮崎 俊弘

昨年度、この桜川市でライフル射撃競技の国体が行われました。高校時代と「茨城国体」が重なるのはとても運がいいことです。しかもライフル射撃競技の会場はこの桜川市ですので、本当に運がいいことです。生徒たちは大変ではありましたが、国体の会場づくりや大会運営に、誠実な態度で力を貸してくれていました。

しかし、このコロナ禍で、今年度の3年生は一度も試合に出られず、引退となってしまいました。3年生は皆、悔しそうな表情で「大会中止」の報告を受けていました。

昨年度の国体には、多くの卒業生が見学に来ていました。茨城県のコーチとして参加していた先輩もいました。そして、本校の部員の増加に大変驚いていた先輩もいました。

今年度からは、ライフル競技だけでなく、ピストル競技にもエントリーできるようにもなりました。

本校のライフル射撃部は少しずつ「進化」しています。

美術部

「WEB総文祭参加へ」

顧問 佐藤真奈美

昨年度、茨城県の総文祭で全国への出展が決まり、その準備のために生徒たちは、新たな題材を探し、改善点と向き合いながら多くの時間を費やし、力を注いで来ました。しかし、新型コロナウイルスのため、全国大会が中止となり、生徒たちはもちろんのこと、誰もが肩を落としました。

特に、入学早々から大作を手がけていた諸井楓さんの作品を、全国大会でお披露目できないことは非常に残念でなりませんでしたが、そのようなときに、突如全国大会のWEB開催が決定し、楓さんの作品を含め、生徒たちの力作を、多くの方々に見ていただけることになりました。本来の形とは違いますが、一時は諦めかけていた目標を再び手にした喜びで、美術部はさらに活気に満ち、気持ちの面でも再スタートすることができました。

現在は出展する作品を県へ提出し終え、次作への意欲を新たに活動しています。そして、新入部員4人を含めて16名の部員は、油絵、水彩画、切り絵、書道などそれぞれが得意分野で技術を磨き活動しています。

ソーシャルメディア部

「広げる・広がる活動」

顧問 時杉 博人

昨年、新聞部と放送部が合併して新生ソーシャルメディア部がスタートした。

新聞部門では全国総文祭に6年連続出場。学校行事や近隣取材した内容を、新聞というメディアを使って表現してきた。

しかし、コロナ禍で一転、今年止となり、各学校の新聞をWEB上で発表することとなった。

本校の部員はもろんだが、何年も前から、全国の高校生を迎え入れる準備を進めてきた高知県の高校生の落胆は想像に難くない。放送部門でも、6月のNHK高校放送コンテスト茨城県大会が中止となり、3年生にとつて有終の美を飾ることができなくなった。

コロナ禍で行動が制限されている今だからこそ、顧問としてできることはないだろうか、自問自答する日々が続いた。そこで、普段からお世話になっている共同通信社の文化プログラムプレスセンターが主催する、米国の五輪スイマーへのオンライン取材への参加をGoogle Classroomで募ってみた。英語

での取材にもかかわらず、二人の女子生徒が自ら進んで手を挙げてくれた。また、部員の活動ができなかったため、旧新聞部のOBに近況報告や寄稿を依頼したところ、続々と原稿が集まった。また、昨年入賞した茨城大学人文社会科学部主催の「茨城の魅力を探求し発信するコンテスト」の製作に取り組もうと、部員たちはこの岩日という枠を飛び出して、自主的に動き出した。

コロナ禍によってこれまで当たり前だった日常が奪われた。しかし、活動の幅を広げること、多くの生徒たちに自主・自立の精神が広がり、動き出していることを誇りに思う。

ボランティア部

「自分たちでできること」

顧問 柴 佳絵

昨年度は、いきいき茨城ゆめ国体桜川市で開催されたライフル射撃競技会のボランティアに多くの生徒が参加しました。地域の方や全国から応援に来られた方々におもてなしなどを行い、貴重な経験ができました。部員たちの、積極的に参加し、それぞれの仕事に従事する姿は頼もしくもありました。

今年度は昨年度に引き続き、地域の貢献に向け尽力していきたいと思えます。現在、コロナ禍の影響で地域イベント等が減っていますが、自分たちでできることを考え、行動していきたいと思っています。



白百合学園高校との交流イベント後(2019/10/27)

活躍する卒業生

私は勉強ができる方ではありませんでしたが、先方のおかげで第1希望の大学に合格し、看護師になることができました。高校時代、学校帰りに友達と遊びに行くことはありましたが、ほとんどはスクールバスで高校と家の往復の3年間でした。

看護師は人の命を預かる大変な仕事ですが、やりがいを感じながら約7年間急性期病棟に勤務していました。看護師として経験を積む中、前から興味があった海外でボランティアをしたいという夢を叶えるため青年海外協力隊に応募しました。現在、看護師としてタンザニアの小さな村の病院で5S-KAIZEN活動を行っています。直接医療行為を行うことはありませんが、5S-KAIZEN（整理・整頓・清掃・清潔・躰）を行うことで医療の質、サービスの向上や医療ミスの軽減、働きやすい環境に繋がります。文化の違いや考え方の違いがあり、思う様に行かないことがほとんどですが、スタッフと一緒に楽しく活動しています。後輩の皆さんには、失敗してもいいので自分のやりたいことに、チャンスがあったら挑戦して楽しい高校生活を送ってほしいです。



■青木 美佳

昭和63年 茨城県結城郡八千代町生まれ
平成16年 八千代町立八千代第一中学校卒業
平成19年 岩瀬日本大学高等学校 卒業
平成23年 埼玉医科大学保健医療学部看護学科 卒業
平成23年 看護師(ICU, HCU, NICU)として勤務
平成30年 青年海外協力隊の看護師としてタンザニアに赴任

新任の先生を 紹介します

4月。岩日は臨時休校を継続しており、赴任早々、先生方はインターネットでの授業配信から始めました。現在は通常授業で、本領発揮の日々を送っています。



外国語科
鈴木 充夫 先生

実は「ジャニーズオタク」歌って踊れる教師(世界のみつお)を目指して毎日努力しています。



国語科
吉澤 孝之 先生

今までいろいろな学校で積み上げてきたものを岩瀬日大高校で全部出し切る決意です。



保健体育科(卓球部)
関川 治郎 先生

「たかが卓球されど卓球」で日々進化を目指したいと思っています。「岩瀬日大から世界へ」



芸術科(吹奏楽部・合唱愛好会)
郡司 悦子 先生

皆さんが思っている以上に男っぽい性格です。1年間見破られないようにがんばります。



地歴・公民科
原 諒太 先生

身長が高いことが特徴で、今も伸びています。早く名前を覚えてもらえるように頑張ります！

令和元年度3年生進路先区分及び令和2年度入試合格状況

1. 進路先区分

卒業生171名(日大・総進コース143名, 国立・特進コース28名)

進路区分	人数	進路区分	人数	進路区分	人数
日本大学(短大含)	98	国公立大学等	6	他私立四年制大学	36
他私立短期大学等	7	専門学校	16	就職・その他	8

2. 合格状況

日本大学 現役120名, 既卒1名 合計121名

学部名	人数	学部名	人数	学部名	人数
法学部	12	危機管理学部	3	生物資源科学部	7
文理学部	13	理工学部	22	薬学部	1
経済学部	5	生産工学部	14	短期大学部	6
商学部	12	工学部	18	通信教育部	1
国際関係学部	6	松戸歯学部	1		

国公立大学等 現役8名, 既卒1名 合計9名

大学名	人数	大学名	人数	大学名	人数
茨城大学	3	福島大学	1	島根県立大学	1
宇都宮大学	2	会津大学	1	防衛大学校	1

私立大学 現役56名, 既卒2名 合計58名

大学名	人数	大学名	人数	大学名	人数
青山学院大学	1	城西大学	1	東海大学	3
朝日大学	1	城西国際大学	1	東京工芸大学	2
足利大学	1	湘南工科大学	1	東洋大学	3
宇都宮共和大学	1	洗足学園音楽大学	1	常磐大学	3
桜美林大学	1	大東文化大学	2	獨協医科大学	1
神奈川大学	2	千葉工業大学	6	日本工業大学	1
関東学院大学	1	中央学院大学	2	日本赤十字看護大学	1
国際医療福祉大学	2	つくば国際大学	3	白鷗大学	5
埼玉工業大学	1	帝京大学	3	立正大学	2
実践女子大学	1	帝京平成大学	1	流通経済大学	2

私立短期大学 現役7名, 既卒0名 合計7名

短期大学名	人数	短期大学名	人数	短期大学名	人数
國學院大學栃木短期大学	1	聖徳大学短期大学部	1	帝京短期大学	1
佐野日本大学短期大学	1	つくば国際短期大学	1	常磐短期大学	2

専門学校等 現役16名, 既卒0名 合計16名

学校名	人数	学校名	人数	学校名	人数
宇都宮メディア・アーツ専門学校	1	呉竹医療専門学校	1	名古屋リゾート&スポーツ専門学校	1
宇都宮歯科衛生士専門学校	1	国際ティビィンシ看護専門学校	1	マロニエ医療福祉専門学校	2
EIKA美容専門学校	2	筑波研究学園専門学校	1	日産栃木自動車大学校	1
大原簿記情報公務員専門学校水戸校	1	つくば歯科衛生看護専門学校	1		
大原簿記情報ビジネス医療福祉専門学校宇都宮校	2	東京観光専門学校	1		

就職・その他 現役8名, 既卒0名 合計8名

就職先名・その他	人数	就職先名・その他	人数	就職先名・その他	人数
株式会社正栄デリシィ筑西本社工場	1	自衛隊	2	予備校	6



校内一斉消毒(5/16)



ビデオカメラで動画授業を撮影(5/18)



テレビ会議システムを利用したSHR(5/18)



乗車率は50%以下にバスを増便(5/25)



クラスを半数にして登校(5/26)



朝の検温(5/18)



教室前の消毒と検温チェック(6/2)



透明フィルム越しのSHR(5/26)



朝の検温(5/26)



間隔を開けるマークが貼られている(6/5)



界面活性剤に浸したダスターを設置(6/2)



前を向いての昼食(6/5)

編集後記

「桜真」50号をお届けします。令和となり初めての新年を迎えた矢先、新型コロナウイルスが世界的に大流行し日本でも各地で感染が広がり行動の制限や行事等の中止や縮小がなされる中、臨時休校という状況で新年度を迎えることになりました。

このような中、去る4月には令和2年度入学式が無事に執り行われることができました。

また、基礎学力到達度テストなどが中止となり学習や受験に対する不安も大きかったと思いますが、学校では茨城県でもいち早くオンライン授業の開始や学校再開に向けた校内消毒・整備など本当に大変な状況の中対応してくださり、校長先生はじめ諸先生方には大変感謝しております。ありがとうございます。

コロナ流行の第2波の予兆がみられる中、落ち着いた日常が早く戻ることを願うばかりです。

最後に、退任されました各役員の皆様ありがとうございました。新役員の皆様1年間よろしくお願ひ致します。発行にあたり、ご寄稿いただきました皆様ご協力ありがとうございました。

広報委員長 山中隆行
(下館支部)